

食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会  
第49回家きん疾病小委員会概要

1. 開催日

平成27年1月16日（金）

2. 開催方法

持ち回り開催

3. 委員（50音順、敬称略）

臨時委員：伊藤 壽啓、合田 光昭、中島 一敏、眞鍋 昇

専門委員：西藤 岳彦、高瀬 公三、盛田 淳三、米田 久美子

4. 議題

岡山県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について

5. 概要

昨年12月の宮崎県延岡市及び宮崎市、並びに山口県長門市における発生事例の際に、本小委員会において確認された事項に基づく的確な防疫措置を講じることで、早期の封じ込めに努めるとともに、更なる発生の予防とまん延の防止のため、以下のことに留意すべきとの提言がされた。

① 今回の岡山県笠岡市の事例は、昨年12月の宮崎県及び山口県の3事例と同様に、死亡羽数の増加が比較的緩やかな傾向が認められている。しかしながら、いずれの事例でも、死亡羽数が通常の2倍以上に増加している。このことから、家きん飼養者においては、先入観にとらわれることなく、飼養家きんに少しでも日常と異なる兆候が確認された場合には、速やかに家畜保健衛生所に通報することが、本病のまん延防止のために必要であること。

② 今秋以降の我が国での家きん及び野鳥による本病の発生状況や、韓国、中国、台湾等の近隣諸国での発生状況を踏まえると、全国どこの都道府県においても、本病が発生するリスクは依然として高い状態が続いている。全ての都道府県においては、異状家きんの通報があった際の危機管理体制及び的確な初動対応の徹底について改めて確認すること。